

劇団I.Q150 30周年記念企画 第2弾

丹野久美子 趣味・嗜好公演

# 夢中遊泳



齋木 良太  
(フリー)

伊藤 文恵  
(空間実験こがねむし)

ゲスト

秋亜綺羅

企画・構成

丹野久美子

2009.11.22. sun / エルパーク仙台スタジオホール

劇団I.Q150  
30周年記念企画

今年の夏、劇団I.Q150は何度も目かになる稽古場の引越しを行った。理由は、決して貧乏のせいではないで追い出された…訳ではなく、これまでの転居同様、よんどころのない外部事情によるものだったとのこと。ただ、1階にあった稽古場から、すぐ上の階のフォトスタジオ跡に移るだけなんですのは、不幸中の幸いだった。

主宰の丹野さんは、どんな困難な状況下でも、頑なに自らの稽古場を持ち続けてきた人である。代々の思い深い稽古場は、彼女の作品全てと同様、彼女の人生そのものなのだ。

この秋、新しい稽古場のお披露目を兼ね、過去の作品を映像で振り返る8夜の上映会が開かれた。私も、そこで振る舞われる丹野さんの手料理の美味しさに心惹かれ足を運んだ一人なのだが、巨大スクリーンに映し出された作品の、今なお輝かしい密度の熱塊(ネットカイ)は、丹野山脈とでも呼ぶべき絢爛たる稜線を形作り、当時の生々しい感動を蘇えらせてくれた。

そんな丹野さんが、この11月、新たな表現者二人とともに、これまでにない形の時空を紡ぎ出す野心的企てに挑もうとしている。

キャストの一人、齋木良太君は、役者らしからぬ行まいの人である。彼は、いつも自らの内面の深淵と格闘する静かなる男である。私の中で、彼はアンファン・テリブル(怖るべき子供たち)の一人であり続けている。

伊藤文恵さんは、初めて踊る姿を見た時、ハンス・ベルメールの人形の上半身にグラスホッパーの下肢をくっ付けた様な不思議な少女だった。彼女は今、その独自の存在感を、あらゆる都市空間に解き放とうとしている。

二人の共通点を敢えてあげれば、もしジョルジュ・テ・キリコの列桂の街で出会う仙台人がいるとすれば、この二人を置いて他に存在しないだろう、という点かもしれない。

そんな二人は今、テ・キリコの街を離れ、丹野久美子の心象風景の中へ越境しようとしている。丹野山脈の麓に広がる世界で、その日どんなでき事に会えるか、今から楽しみでならない。

## 気づいたときにはもう遅い 夢中だった

秋亜綺羅

コンサートといえばクラシック音楽ばかりだった時代に、世界で初めてのジャズがホールで披露されたとき、観客ははしゃいでしまい、ブーイングが渦巻いたと思う。だが、この歴史的な時間と場所に立ち会ってしまったことに、ずっとあとになって、観客は気づくことになる。

今回の丹野久美子のくわだてには、そんなスケールの巨大さを感じるのである。

男女2名の行為は10時間に及ぶ。そこにはおやつや、食事、お昼寝タイムもあるという。

ここは日常なのか、それとも演劇の中なのだろうか。観客は自分が観客であることを問うことになる。だが、この演劇に観客論はない。単独犯なのか、共犯なのか、立会人にすぎないのか。観客自身が決めればよいことである。

演劇のステージの上では、錯覚こそが、もっとも劇的な現実、ということになる。

夜、眠り始めた瞬間に、目覚める夢を見る男がいる。朝起きて夜寝るまでの一日を、そっくりもう一度夢に見てしまう。

朝、目覚めた瞬間に、昨日の夢とまったく同じものが始まる女がいる。夜じゅう見つけた夢が、現実で確実に実行されるのである。

男はある日、死ぬだろう。二度くり返す人生の夢なんか、もう見なくてすむんだよ。

女はある日、死んだ夢を見るだろう。夢からさめぬ方法を、だれに尋ねたらいいだろう。

齋木良太と伊藤文恵にはそんな感性を覚えるのだ。そんな男女が、エルパーク仙台のステージで出会うことになる。それは夢の中で、なのだろうか。現実で、だろうか。

仕組まれた日常と、なにもしない演劇。

声が出なければ、叫ぶしかないよ。

ここが暗闇ならば、凝視しつづけるしかない。

泣きたければ、歌うしかないさ。

気づいたときにはもう遅い、夢中だった。

気づいたときにはもう遅い。

ずっとあとになってしかわからないことが、家の鏡の中であなたを待っている。日常という名のもう半分のあなたへの、おみやげなのだから。

## 劇団I.Q150 30周年記念企画 第2弾

### 丹野久美子 趣味・嗜好公演

# 夢中遊泳

むちゅうゆうえい

2009年11月22日(日)

10:30~20:30(出入自由)

※詳細はTime Tableをご覧ください

エルパーク仙台スタジオホール

一般 3,000円(当日3,300円)

学生 1,500円(当日1,800円)

※満席の場合、当日券は発行いたしません。

チケットは劇団I.Q150へ

電話、NETでご予約いただくか

下記のところでご購入ください。

ご予約先 劇団I.Q150

Tel.022-234-0651

http://www.iq150.info

チケット取り扱い場所

あべひげ

せんだい演劇工房10-BOX

## この公演について

丹野久美子

「夢中遊泳」とは

男と女がいる。  
齋木良太と伊藤文恵。

ふたりはおなじ場所にいる。  
そこは、たとえば、公園。  
仮に、1丁目4の1番地公園としよう。  
ふたりはそこにいる。

ふたりは大きくなりすぎた子供だ、と、私は思う。  
ふたりは無邪気に遊ぶ。

お客さまのあなたには、  
その公園にふらり立ち寄り、  
しばらくの時間をのんびりと  
過ごしていただきたい。

ふたりはそこにいる。  
あなたもそこにいる。

今日は2009年11月22日。  
「いい夫婦の日」だそうだが、  
ふたりは夫婦ではない。

「丹野久美子 趣味・嗜好公演」とは  
私が「素敵だ!」と思う俳優さんと一緒に、なにかを創ることが  
できるという、私が一番うれしい企画です。  
今回はずっと前から気になってしょうがなかったお二人と初  
コラボです。



## Time Table

\*公演は13時からと18時からの2回(約2時間)を予定いたしております。2回とも同じ内容です。

\*開場は10時30分、それ以降は半券を提示いただければ出入は自由です。

\*公演のない時間帯は公園にいるような気分でお過ごしください。(お弁当持参可)

|       |                                   |
|-------|-----------------------------------|
| 10:30 | はじまりです。<br>うちあわせ!?                |
| 11:00 | まだはじみかとも。<br>そろそろ何か<br>はじまるかも…    |
| 11:30 | おひるごはんです。                         |
| 12:00 |                                   |
| 12:30 |                                   |
| 13:00 | カクテルポエム<br>「ドリーム・オン」<br>TEXT=秋亜綺羅 |
| 13:30 |                                   |
| 14:00 | Qアネ公演<br>「夢中遊泳」<br>TEXT=丹野久美子     |
| 14:30 |                                   |
| 15:00 |                                   |
| 15:30 | おやつです。                            |
| 16:00 | おひるね<br>しましよう。                    |
| 16:30 |                                   |
| 17:00 | はんごはんです。                          |
| 17:30 |                                   |
| 18:00 | カクテルポエム<br>「ドリーム・オン」<br>TEXT=秋亜綺羅 |
| 18:30 |                                   |
| 19:00 | ソワシ公演<br>「夢中遊泳」<br>TEXT=丹野久美子     |
| 19:30 |                                   |
| 20:00 | おしまいです。<br>バラしです。<br>お手伝いた歓迎!!    |
| 20:30 |                                   |
| 21:00 |                                   |
| 21:30 |                                   |

打ち上げは多分「あべひげ」です。



## Profile

伊藤文恵(いとう ふみえ)

- 夢中の本当の意味を知って、ちょっとがっかりした夢中踊り子。
- 空間実験こがねむし所属。役者、制作として活動中。
- 2004年より10-BOX国際演劇学校を受講。
- 団体の他にソロのダンス作品をメインに活動中。2007年JCDN全国パフォーマンス間のダンス巡回プロジェクト「踊りに行くぜ!!」仙台公演出演。
- 夢中の意味にがっかりしても、2010年も夢中に生きる予定。

丹野久美子(たんの くみこ)

- 劇団・Q150 劇団代表・劇作家・演出家・女優
- 1979年に劇団を立ち上げ以来、全ての作品を制作・演出・出演し、今年で活動30周年を迎える。人間のはざまにうごめく様々な局面を、細やかにしなやかに、そして力強く描く。舞台は音楽と言葉が織りなす幻想的かつダイナミックな演出として定評があり、女優としても不思議な魅力を持ち続けている。
- 平成3年宮城県芸術選奨新人賞、平成10年宮城県芸術選奨賞

齋木良太(さいき りょうた)

- 夢中俳優。
- 2002年から2006年まで仙台の劇団三角フラスコに夢中で在籍。
- 2004年より10-BOX国際演劇学校を夢中で受講。
- 2007仙台におけるフランス・レンヌ年記念/日仏共同制作パフォーマンス「A L'ENVERS/あべこべ」に夢中で出演。
- 劇団無国籍「オフィス集の雲」に夢中で出演。
- pointo「サンシャインハイツ202号室」に夢中で出演。
- SENDIA座☆プロジェクト「女中たちのボレロ」に夢中で出演。
- 杜の都の演劇祭2008「一行物語集 世界は蜜でみたされる」に夢中で出演。
- 12月には杜の都の演劇祭2009「イサムよりよろしく」に夢中で出演予定。
- 2010年からは公演活動を夢中で休止する。

秋亜綺羅(あき あきら)

- 現代詩人
- 所属: ココア共和国(プロク)
- 代表詩集: 「海!つっくり返れ!おきあがりこぼし!」

企画・構成 丹野久美子

出演 伊藤文恵(空間実験こがねむし)

齋木良太(フリー)

ゲスト 秋亜綺羅(詩人)

題字 斉藤文春(題字)

スタッフ 良太を文恵を応援する会  
大場Q太郎(webデザイン)

制作 星川律子

助成 仙台市民文化事業団



# 劇団I.Q150

www.iq150.info

〒984-0015  
仙台市若林区卸町2-2-1 パックス倉庫  
Tel & Fax 022-342-0651